



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：540千円

## 特別展示「深山の祝祭—神妻の花の舞—」

**目的・趣旨** 北遠地域に伝来した祭祀芸能とそれに用いられた面、祭具を紹介・展示する。三遠南信の山里に伝えられてきた「冬の祈り」ともいべき民俗芸能の魅力を本学の学生たちや市民にも見知っていただく機会とする。

**日時・場所** 令和6年11月14日～令和6年11月20日  
静岡文化芸術大学 ギャラリー、講堂

**体制** (実施代表者) 文化政策学部 国際文化学科 教授 二本松 康宏  
文化政策学部 芸術文化学科 准教授 田中 裕二

**共催・後援等** (共催) 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会  
(後援) 浜松市  
(協力) 神妻神社、川合花の舞保存会

### 内容

浜松市天竜区佐久間町の神妻神社はかつて修験の聖地として繁盛した。神仏習合の面影を残すその山深い神域には、かつて「花の舞」が伝えられていた。しかし、明治維新から廃仏毀釈を経て、いつの頃にか神妻神社の「花の舞」は断絶した。残されたのは5つの面だけである。本事業では、浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会および浜松市文化財課と連携して神妻神社に伝来した面と古文書の調査を実施し、それらを本学ギャラリーにて展示・公開した。また、公開講演会、ギャラリートーク、川合花の舞の実演などもあわせて開催した。なお、本事業は「地域連携演習」のプログラムも兼ねており、13名の学生が企画・運営に参画した。



### 結果・成果

11月14日(木)の内覧会から11月20日(水)までの7日間の開催である。11月14日(木)の内覧会では浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会と浜松市文化財課の関係者、学内関係者を含めて約20名が参加。来賓として仲井英之・天竜区長にご臨席いただいた。内覧会には静岡新聞(掲載は11月15日朝刊)、翌日には中日新聞(掲載は11月16日朝刊)の取材があり、開催の紹介記事が掲載された。11月16日(土)は永松敦氏(放送大学客員教授)と宮嶋隆輔氏(國學院大学大学院生、元・本学客員研究員)による講演、さらに「川合花の舞」の特別披露を開催した。来聴者は約120名。とくに「川合花の舞」は保存会長の水上文男氏による解説とともに実演されたことで、きわめて貴重な機会となった。11月17日(日)は「地域連携演習」としても履修登録している「三遠南信神事芸能研究会」の学生3名によるギャラリートークを開催した。学生によるギャラリートークは今回が初めての試みである。内覧会を含む7日間で合計418人の参加があった。本事業における大きな成果と言えるだろう。「地域連携演習」として事業の企画・運営に参画した学生たちにも充実した学習の機会になったと思われる。

